

枇杷育種試験の経過（第1報）

浜口克己・村松久雄・池田丈助・一瀬 至
（長崎県総合農林センター）

長崎県の枇杷は、現在ほとんど茂木種が栽培されている。しかし収穫時期と梅雨の関係、或いは経営規模の拡大等の問題から、栽培品種も現在の茂木種だけでなく、更にこれより熟期が早く、茂木と同じ程度の品質をそなえた品種が要望されている。今回この目的にそつて系統選抜及び新品種の育成を行つたのでその結果をここに報告する。

育成経過

1951年及び1952年の2年間にわたり、県内の早生枇杷について系統選抜を行い、本田早生、楠葉早生、峰早生の3系統を選抜した。本田早生は茂木の実生変異で、写真のように茂木より熟期が20～25日早い。しかし開花の中が広く、早く咲いた花が熟期は早い。しかしこの花は一面において寒害に弱く、寒害からまめかれた遅咲きの花は、熟期が茂木より4～5日早い程度で品質もやや劣る。楠葉早生は、在来種三月枇杷の実生変異と考えられるもので、熟期はやはり茂木より25日位早いが、果型が楕圓形で好しくない。又酸味も強く、肉質もやや粗剛であつた。峰早生は茂木より5～7日熟期が早い程度であつたが、品質が良く、特に剥皮面が平滑であつた。しかし着花が少く収量が低い。従つてこれらはいづれもそのままでは新品種としての価値が少いので、品種育成の親として1953年にこれら3系統を茂木に交配し、その実生の果実を1959年より調査した。

調査結果及び考察

1959年から一部の実生に果実が結実したが、個体数が少つたので、1961年～1962年に本格的な調査を始めた。組合せの中で茂木の楠葉早生は、写真の様に果型が三月枇杷に近いものが多く、酸味の強い特性も現

れ、肉質も一般にやや粗剛であつた。茂木×峰早生は、峰早生の結実性の悪い特質がでて、1962年に於ても殆んど結実せず、果実調査が充分でなかつた。茂木×本田早生の組合せには良いものが多かつた。先ず第一表のように熟期は68、73、75号が茂木に比べて約一週間、63、76号が10日～2週間程度早くなつている。これらの開花時期は63、80号が茂木に比べて40日位早く、68、69、73、76号は25日位早いが、75号は15日早い程度にすぎない。本田早生の寒害から考えると、開花時期はあまり早くなくて、熟期のみが早いタイプの75、76号の方が好しい。果型は68、69、80が丸型で、63、73、75、76号は茂木とほぼ似た型になつており、果皮の色は全て橙色～橙黄色である。果実の大きさは、1961年が殆んど摘房しなかつたため、結果過多で小果になつたものもあるが、1962年は適宜摘房して調査した。2年間の調査から考えると68、76号は茂木よりやや大型の傾向があり、63号は大体茂木と同じ程度の大きさである。糖度は68、69、76号はかなり高く、73、80号はやや低い。酸味は63、80号が茂木と同じ程度で、他は茂木よりやや酸味の強いものが多い。従来の茂木はやや酸味が少なすぎる傾向があり、若干酸味があつた方が濃厚となつている。肉質は68、73号がや

第1表 育種枇杷の特性 (1)

交配	育種番号	開花始		収穫始		収穫盛期	
		1961年	1962年	1961年	1962年	1961年	1962年
茂木×本田	63	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
同 上	68	10 20	5 26	5 28	6 1	6 7	6 12
同 上	69	11 5	6 1	6 1	6 4	6 9	6 12
同 上	73	11 5	5 26	5 28	6 1	6 12	6 12
同 上	75	11 15	5 26	5 28	6 4	6 7	6 7
同 上	76	11 5	5 26	5 28	6 1	6 7	6 7
同 上	80	10 20	5 26	6 7	6 9	—	—
茂 木		12 1	6 4	6 14	6 10	6 19	6 19

第2表 育種枇杷の特性 (2)

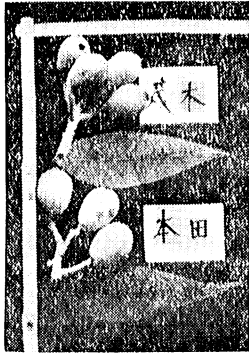
育種番号	果型	色	果重		糖度		酸味	肉質
			1961年	1962年	1961年	1962年		
63	茂木型	O, Y	34.8g	39.0g	11.6	12.0	少々有 有有有有 有有有有 有有有有 有有有有 有有有有 有有有有 有有有有	良良良良 良良良良 良良良良 良良良良 良良良良 良良良良 良良良良 良良良良
68	同丸型	O, O	32.8	44.1	12.5	12.4		
69	同丸型	O, Y	27.8	39.4	12.2	12.0		
73	同木型	O-OY	25.2	40.0	11.1	11.0		
75	同上型	O-OY	30.2	32.0	—	11.4		
76	同上型	O	31.5	45.3	11.8	12.1		
80	同丸型	O-OY	32.1	38.5	10.5	11.6		
茂木			35～40g		11-12			

や粗剛であるが、他は大体茂木に比適する肉質をもっている。

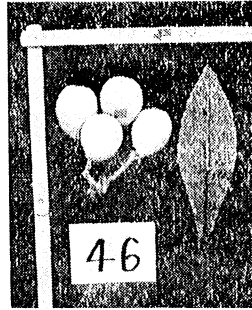
以上の熟期品質等全体から考えて、68、75、76号が比較的面白く、現在茂木町で高接ぎを行い現地適応試験を行っている。この中でも特に76号は注目に値する

と考えられる。

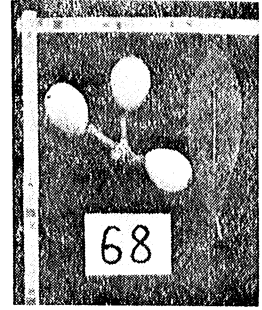
尚1961年に、これ等を更に茂木種に Back cross している。又写真の様に枝変りの大果種も県内で発見されているが、これは肉質が劣るので、この大果種を75号に交配し、新しい組合せの実生を育成中である。



本田早生収穫時の茂木の大きさ



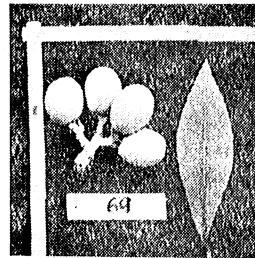
茂木×楠葉の果形



茂木×本田68号



76号(茂木×本田)の収穫時の茂木の大きさ



茂木×本田69号